

ウチダザリガニ

目科名：エビ目ザリガニ科
学名：*Pacifastacus leniusculus*
原産地域：アメリカ北西部

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来水生生物の駆逐

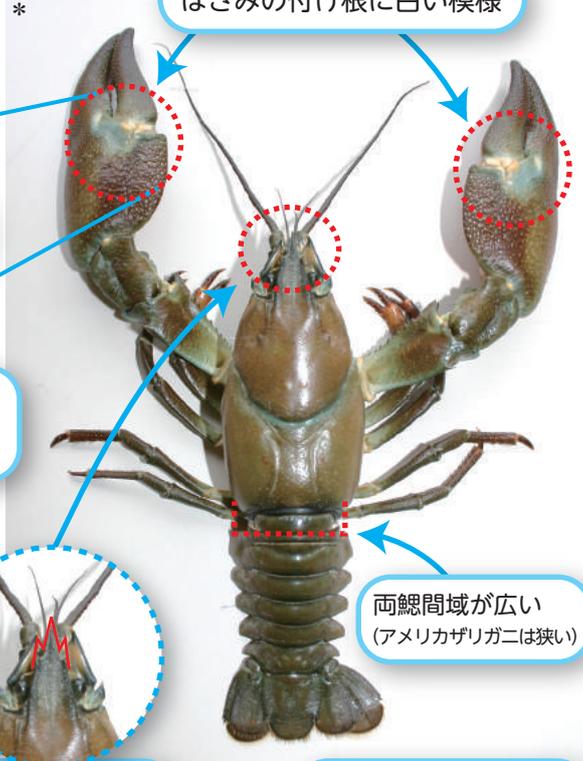
- ・ 様々な小動物を食べる
- ・ 水草を切断して水生植物群落を壊滅させる

産 業：漁業への被害

- ・ 魚の卵を食べ、水産有用種の繁殖を阻害
- ・ 取水口に死体が詰まり、水位調節を阻害



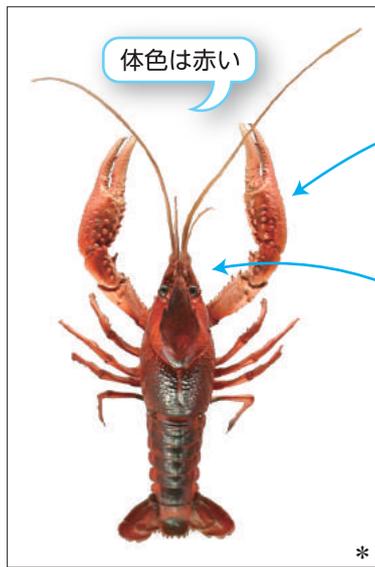
はさみの付け根に白い模様



両鰓間域が広い
(アメリカザリガニは狭い)

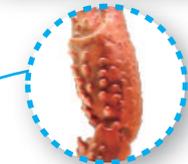
【間違わないで！】

アメリカザリガニ (外来種)
体長：約10cm (最大約12cm)

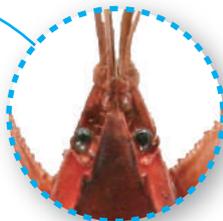


体色は赤い

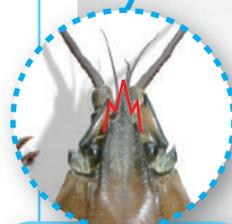
体の色と大きさ、はさみと頭の形に注意しよう！



全体に赤いトゲがある



赤色でごつごつしたトゲがたくさんある



先が尖っていて3つの山に分かれる

- ・ 体長最大約15cm
- ・ 体色は茶褐色

【生息場所】

- ・ 湖沼や流れのゆるい河川に生息
- ・ 結氷する水温から30℃程度まで生存が可能
- ・ 寿命は4～6年

【どこまで広がっているか】

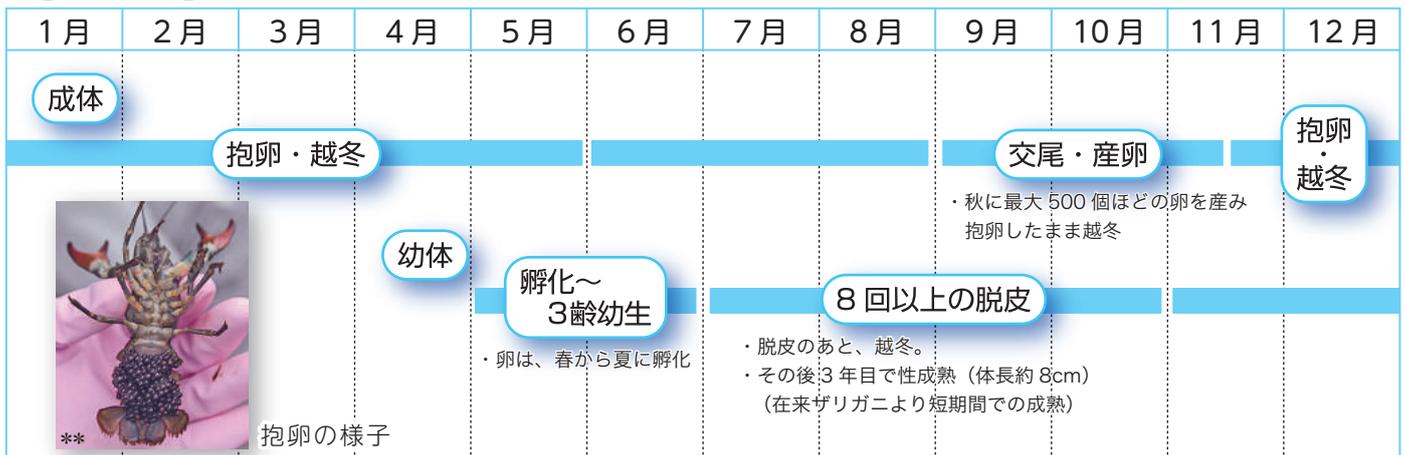
長野県では

- ・ 東信地方、中信地方、南信地方の数か所の湖沼・河川に定着

全国では

- ・ 1909年に初輸入
- ・ 1926～30年にかけて食用として全国の水産試験場に配布
- ・ 現在は、北海道、福島、福井、滋賀に分布のほか、宮城、新潟、栃木、千葉でも確認事例あり

【生活史】



写真提供 *環境省 **パークボランティア十勝地区会員：林紀雄

【防除方法】

通報する 早期発見が最も重要

- ウチダザリガニの特徴に当てはまるザリガニがいたら、市町村や県地域振興局環境課に連絡をする
 - ※持ち出しに関する注意喚起の看板がある場合は、ザリガニの存在は把握されているので連絡の必要はない
 - ※絶対に持ち出しはしないこと

流出・持ち出しの防止 拡大を防ぐ

- ◎主に市町村担当課が担当します
- 排水口の構造をチェックする
 - ・ザリガニが流出しないような構造になっているか
- 人による持ち出しを防ぐ
 - ・持ち出している人がいないか？
 - ・持ち出さないよう注意喚起の看板を設置

個体の捕獲 根絶を目指す

- ◎所管の漁協の方と実施できる体制作りを！
- ため池の水を抜く（在来の水生生物に十分な配慮を！）
 - ※作業前に外来種が流出しない対策をすること
 - ・小規模な池等であれば、水を抜いての捕獲が可能
 - ・水を抜いたあとは、しばらく干す
 - ・夏季であれば水量を減らして、水温を高くすることで死滅させることも可能
- わなで捕獲する
 - ・捕獲率が最も高いのは網モンドリ（アナゴカゴ）
 - ・他に、カゴ網、カニカゴ、ドウ（ドジョウうけ）等も使える（ただし、網目の大きなカニカゴは小型個体が逃げてしまう）
 - ・高密度ではカゴ網、密度が低下したあとはアナゴカゴを使うように、状況に応じて組み合わせたり、使い分けを検討すると良い
 - ・餌は生魚やネコ用缶詰が効果的
 - ・捕獲効率が最も高い設置時間は18～24時間
 - ・わな設置後24時間を経過すると脱走率が上がるため、設置後は放置しない
 - ・捕獲作業結果を記録する（わなの設置日、回収日、設置場所、捕獲数、オスメスの区分、わなの種類等）
 - ※いずれの方法で捕獲した場合も、捕獲個体を生きたまま他の場所に移動させないこと

漁具漁法によって必要な手続きや体制があります

- ・魚やエビ等が混獲されるため、漁具の使用は、「長野県漁業調整規則」に従うこと
- ・禁止事項の一部を特別に許可する特別採捕許可（特採）の申請や漁業協同組合との調整が必要な場合もあり

どのような捕獲ができるか、まずは相談を！

- ・漁業調整規則や申請についての相談先
 - ▶各地域振興局 農業農村振興課
 - ▶県庁 園芸畜産課 水産係
- ・漁法や場所についての相談先
 - ▶長野県環境保全研究所



網モンドリ（アナゴカゴ）*



網モンドリ（アナゴカゴ）と作業スタイル

【防除実施事例】

松川町の片桐ダムとため池における県実施の駆除事業

< 調査内容 >

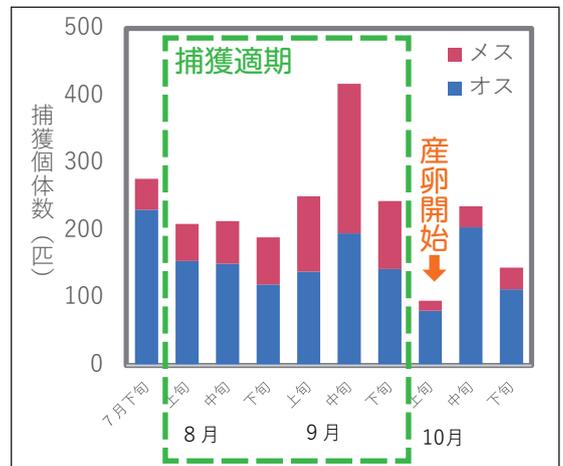
- ・7～10月の間に網モンドリ+猫缶で捕獲を実施
- ・ダム湖（大水域）およびため池（小水域）に対し、罠各10個を設置

< 捕獲結果 >

ダム湖：1200匹（2017年10回）	ため池：59匹（7月）
→2319匹（2018年20回）	→7匹（8月）
→376匹（2019年4回）	→13匹（9月）
	→8匹（10月）

< わかってきたこと >

- ・捕獲数は季節で異なり、7～9月に捕獲数とメスの割合が上昇
- ・ダム湖では、捕獲回数に比例して捕獲数が増加→低密度化できず
- ・小規模なため池では年20回の捕獲により、1シーズンで低密度に
 - ➡大きな水域では、入れない！出さない！ことを徹底
 - ➡小さな水域は、高い捕獲圧+水抜きで根絶できる可能性あり
 - ※産卵前の8～9月に成体メスをたくさん捕獲するのが重要



ウチダザリガニの成体メス捕獲数および割合の推移
 「平成30年度外来生物戦略構築事業（駆除事例づくり事業）
 ウチダザリガニ駆除業務委託 下伊那郡松川町片桐ダム」より